

件名	令和2年度6月議会「墨田区高齢者在宅サービスセンター条例の一部を改正する条例」の見直しに関する請願			
提出者 住所氏名	墨田区文花 H			
受理年月日	令和2年11月20日	受理番号	第1号	
紹介議員	中村 あきひろ・あさの 清美			

要旨

2025年問題で認知症対応型通所介護の役割が非常に重要になっていることを鑑み、区立施設配置の見直しに伴うたちばな高齢者在宅サービスセンターの廃止を撤回し、継続させてください。

(理由)

たちばな高齢者在宅サービスセンターに通所されている方は、この施設を第二の終の棲家同様に生活をしています。とりわけ職員の方の質の高さは、様々なところで評判を耳にするほど、通所される方やご家族の方を含めて地域になくしてはならない要の高齢者在宅サービスセンターとなっています。また、ボランティアにいられている吾孺立花中学校の生徒のボランティア、洗濯ボランティア、傾聴ボランティア、ほほえみグループのボランティア、ドットファイブトーキョーのボランティア、配膳ボランティア、フラワーアレンジメントクラブのボランティア、ふれあいベルすみだのボランティア等、1日平均10人程度の方に関わっていただき、まさに地域全体で支え合いができており、地域のための高齢者在宅サービスセンターとなっています。

認知症は、環境が変われば1か月単位で症状が悪化していくように、非常に注意を払わなければならないと同時に、優れた環境であれば症状の進行を遅らせることができることから、他の通所介護施設が空いているからといって環境を変えることは、本人の負担、家族の負担、そして第二の終の棲家を失うということで尊厳にも関わる話です。つまり、他の施設に空きがあるから移動すれば代替えが利くという単純なものでは決してありません。

今後、2025年問題の超高齢化に向けて、とりわけ認知症対応型通所介護の役割がますます重要になってきます。厚生労働省の認知症施策推進総合戦略によれば、我が国の認知症高齢者の数は、2012年で462万人だったと推計されていたものが、2025年には約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが見込まれています。認知症は、日本全国はもとより、本区もかなりの危機感を持って対応しなければなりません。

仮に墨田区で約5人に1人を想定すると65歳以上の高齢者が約6万1,000人であるので、約1万2,000人が認知症を発症すると推計されることから、令和2年度定例会6月議会議案第8号「墨田区高齢者在宅サービスセンター条例の一部を改正する条例」の提案理由となっているたちばな高齢者在宅サービスセンター

を廃止することは、現在を含めて今後も介護難民を増やすことにつながり、超高齢化に全く対応できなくなる危険性があることから、継続させることを要望します。

また、厚生労働省は、2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムは各中学校区を基本とする圏域ごとに設置をするよう方針を出していますが、たちばな高齢者在宅サービスセンターを廃止すれば、立花の中学校区から認知症対応型通所介護を提供できる施設がなくなるため、廃止の見直しを求めます。

上記の実現のため、一例として、すみだステップハウスおおぞらの配置変更の方法として東あずま保育園の仮園舎方式を採用し、例えば公園等にすみだステップハウスおおぞらがある旧文花小学校の敷地内工事が終了するまで、元の環境と同様な仮施設を設置し運営することで、たちばな高齢者在宅サービスセンターを存続できるようにすることを要望します。

若しくは、上記の配置変更の実現が困難な場合は、たちばな高齢者在宅サービスセンターに東あずま保育園の仮園舎方式を採用し、一例として公園内等の仮施設に移転し、現在と同じ社会福祉法人(賛育会)及び運営スタッフでの運営をしていただき、墨田区が管理する認知症対応型通所施設を減らすことなく存続できるようにすることを要望します。なお、上記の案は一例であり、存続させることができる代替案があれば、方法論にこだわる必要性はなく、存続を第一に考え対応していただくことを求めます。

最後に、2025年問題を鑑みれば当然、認知症の高齢者が増加するのは明らかであり、区が管理する施設においては、認知症対応型通所介護等の施設を増やすことがあっても、減らすことは明らかに超高齢化社会の対応に反すると言わざるを得ません。墨田区の福祉行政の在り方を千思万考し、あらゆる可能性を追求し、詳細で具体的な説明をし、地域包括ケアをどう構築するかを含め、一度立ち止まり、たちばな高齢者在宅サービスセンターの認知症対応型通所介護の在り方を根本的に考え直す必要があります。

地域に愛された人材とノウハウを持ったたちばな高齢者在宅サービスセンターが今後も墨田の地域のために存続することを強く望みます。

以上の趣旨をご理解の上、上記事項の実現をお願いいたします。

以 上